

大学紹介

概要・沿革

一橋大学は、1875年に設立された商法講習所を起源とし、今年2025年に創立150s周年を迎える社会科学に特化した国立大学です。東京都国立市にある緑豊かなキャンパスを中心に、少人数制・対話重視のゼミ教育や学部横断の自由な履修制度を通じて、学生の知的探究心と主体性を育てています。海外留学支援も充実しており、グローバルに活躍できる人材の育成にも力を入れています。商学部・経済学部・法学部・社会学部に加え、2023年にはソーシャル・データサイエンス学部が新設されました。文理融合型の学びを通じて、複雑な社会課題に挑む力を養っています。

大学データ

学生数



4000名以上

サークル・部活数



140以上

海外協定校数

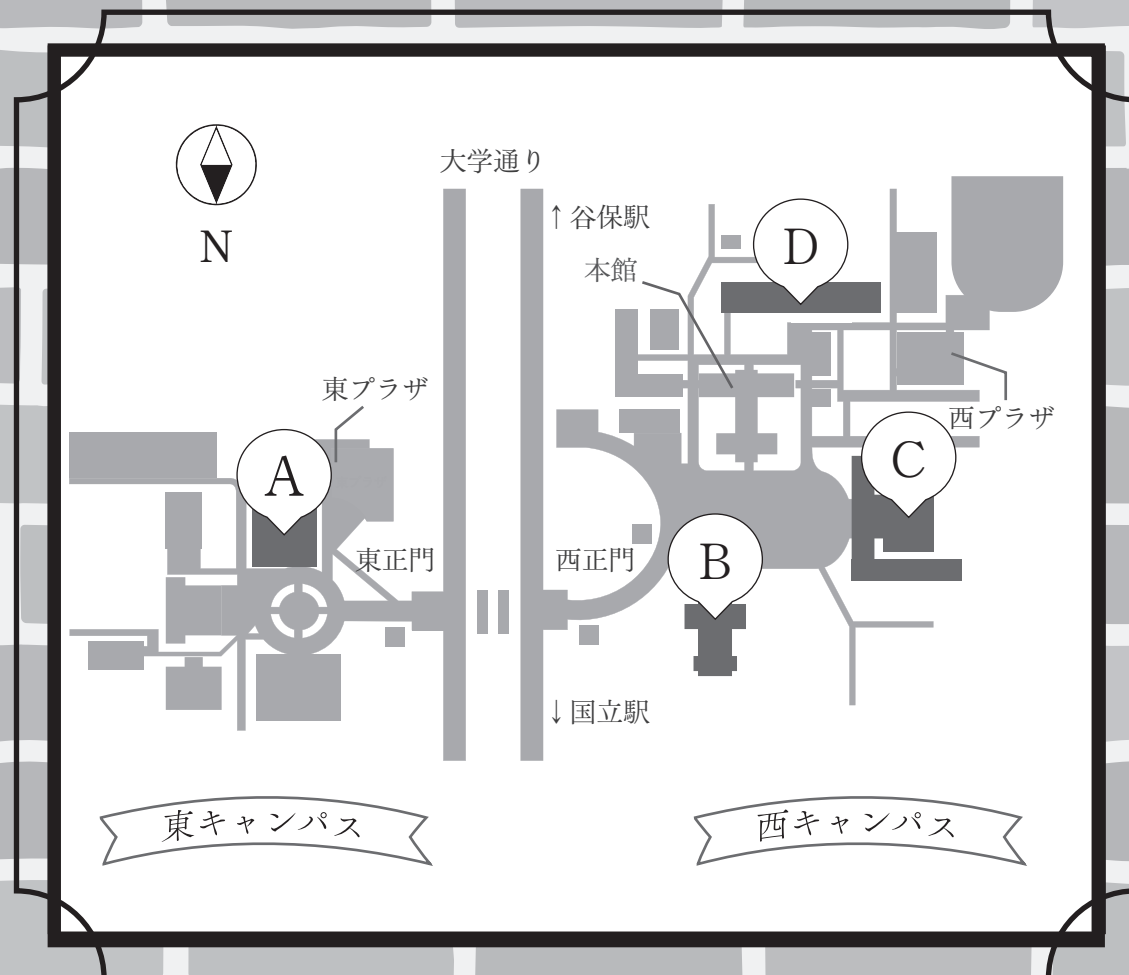


216校

大学の魅力

一橋大学がある国立市は文教地区に指定されており、穏やかで閑静な住宅街の中で学生は安心して生活を送ることができます。国立駅から大学へと伸びる大学通りの並木道は、春には桜、夏は新緑、秋はイチョウが彩りを添え、見る者の多くを魅了します。また、構内にも東京らしからぬ豊かな自然と、歴史的な趣を残しながらもモダンな設計や改修が施され独特の雰囲気を持つ多くの建物が調和を生み出し、伝統と現代性が融合した魅力的なキャンパスをつくり上げています。こうした環境の中で、学生は集中して学問に取り組み、充実した学生生活を送ることができます。

HITOTSUBASHI MAP



東1号館



大小さまざまな講義用の教室がたくさんある建物で、一部の教室は入試会場としても使われています。中心は吹き抜けになっていて中庭があり、天気の良い日はベンチでお弁当を食べる人もいます。1年生が全員必修のPACEという英語の授業もおもにここで行われます。個人的なお気に入りスポットは入って左にあるちょっとした机と椅子が並んでいるスペースで、比較的静かなので図書館での作業に飽きたときによく使っています。



兼松講堂



兼松講堂は一橋大学の象徴的な建築物で、国の登録有形文化財に指定されています。ロマネスク様式の装飾が特徴で、伝統的な雰囲気を感じることができます。学生が普段使用する機会は入学式など特別なイベントに限られますが、例年一橋祭の企画ではオーケストラや著名人による講演会などが行われ、たくさんの来場者が訪れます。西キャンパスの正門近くに位置するため毎日目にすることができ、一橋に入学した実感を与えてくれます。



図書館



国立キャンパス建設当初の1930年から存在する、美しく立派な図書館です。蔵書数は200万冊を超え、デジタル資料も豊富です。本の検索や貸出状況の確認はネットで簡単にでき、貸出延長もすぐにできます。大閲覧室には約330席の広々とした自習スペースがあり、授業日は夜21:30まで空いている他、一部の席にはコンセントもあるので、ここに来れば作業には困りません。その他にもいろいろな自習スペースがあります。



講義棟



西キャンパス本館裏の少し奥まった場所にある建物です。さまざまな大きさの教室があり、窓も多く、廊下の壁はガラス張りのところもあるので開放感があります。机が中心を囲むように並んでいる教室が多いので、特に少人数で話し合うゼミや打ち合わせによく使われています。1階には椅子と机の並んでいるちょっとしたスペースが2箇所あります。自販機があったり、図書館よりも開放感があるのでそこで作業している人も多いです。